

クビアカツヤカミキリ撲滅プロジェクトの活動紹介

背景と課題

外来種のクビアカツヤカミキリは、2015年7月に板野郡板野町で、サクラ、モモ、ウメ、スモモで被害が確認された。特に、モモでは壊滅的な被害を受けた生産園があり、早急な防除対策が必要となっている。

研究の目的

本研究は、クビアカツヤカミキリを早急に発生地より撲滅するため、クラウドファンディングによる支援金を活用し、防除技術を確立することを目的とする。

研究の内容および成果

- 2015年よりモモ園における被害の発生を調査したところ、板野町吹田を中心に被害は拡大し、2017年には、上板町神宅まで、2018年には鳴門市大麻まで確認された(表1)。



図1 クビアカツヤカミキリオス成虫



図2 幼虫の被害を受けたモモ樹
※大量に排出されたフラスにより容易に確認できる。

表1 モモ産地における被害の発生状況

| | 上板町 | | 板野町 | | | 鳴門市 | 計 |
|--------|----------|------|-------|---------|----------|-------|----------|
| | 神宅 | 羅漢 | 犬伏 | 吹田 | 川端 | 大麻 | |
| 2015 園 | 0/0 | 0/5 | 1/5 | 9/9 | 7/9 | 0/2 | 16/30 |
| 2015 樹 | 0/0 | 0/69 | 1/34 | 95/155 | 34/428 | 0/178 | 130/864 |
| 2016 園 | 0/4 | 0/5 | 0/2 | 14/15 | 17/22 | 0/2 | 31/50 |
| 2016 樹 | 0/227 | 0/69 | 0/5 | 125/323 | 131/603 | 0/178 | 256/1405 |
| 2017 園 | 31/100 | 2/5 | 8/8 | 11/12 | 25/36 | 0/9 | 69/162 |
| 2017 樹 | 131/2831 | 6/44 | 20/39 | 100/222 | 188/1303 | 0/432 | 425/4832 |

注) 数値は、被害園・樹数/調査対象園・樹数を示す。2018年は集計中。

- 徳島大学生物資源産業学部等の学生らにより「クビアカツヤカミキリ捕獲隊」を編成し、成虫の捕獲を板野町吹田と同町川端で試みたところ、2017年には、合計で1,423頭が捕獲された。2018年も同程度が捕獲されている(現在、集計中)。

- オス成虫が発出するフェロモンを人工合成し、トラップのルアーとしたところ(図4)、メス成虫を誘引し、捕獲できることが明らかとなった(図3)。

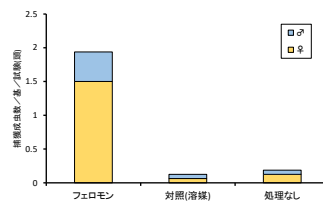


図3 合成したフェロモン剤の誘引効果
(Xu et al., 2017)



図4 モモ園内に設置した十字型衝突板トラップと合成したフェロモン名と構造

- 成虫に対して、有機リン系のDMTP剤、マラソン・MEP剤、ネオニコチノイド系のアセタミプリド剤等の高い効果が明らかとなった。

(研究期間：平成29年～30年；県単試験研究費)

生産者のみなさまへ

本研究で得られた成果は、平成30年度よりイノベーション創出強化研究推進事業に引き継ぎ、効果的な防除技術の確立を進めていきます。

問合せ先 徳島県立農林水産総合技術支援センター
資源環境研究課 病害虫・鳥獣担当
電話 088-674-1954

クビアカツヤカミキリ撲滅プロジェクトの活動紹介

背景と課題

外来種のクビアカツヤカミキリは、2015年7月に板野郡板野町で、サクラ、モモ、ウメ、スモモで被害が確認された。特に、モモでは壊滅的な被害を受けた生産園があり、早急な防除対策が必要となっている。

研究の目的

本研究は、クビアカツヤカミキリを早急に発生地より撲滅するため、クラウドファンディングによる支援金を活用し、防除技術を確立することを目的とする。

研究の内容および成果

1. 2015年よりモモ園における被害の発生を調査したところ、板野町吹田を中心に被害は拡大し、2017年には、上板町神宅まで、2018年には鳴門市大麻まで確認された(表1)。



図1 クビアカツヤカミキリオス成虫



図2 幼虫の被害を受けたモモ樹
※大量に排出されたフラスにより容易に確認できる。

表1 モモ産地における被害の発生状況

| | 上板町 | | 板野町 | | | 鳴門市 | | 計 |
|--------|----------|------|-------|---------|----------|-------|----------|---|
| | 神宅 | 羅漢 | 犬伏 | 吹田 | 川端 | 大麻 | | |
| 2015 園 | 0/0 | 0/5 | 1/5 | 9/9 | 7/9 | 0/2 | 16/30 | |
| 2015 樹 | 0/0 | 0/69 | 1/34 | 95/155 | 34/428 | 0/178 | 130/864 | |
| 2016 園 | 0/4 | 0/5 | 0/2 | 14/15 | 17/22 | 0/2 | 31/50 | |
| 2016 樹 | 0/227 | 0/69 | 0/5 | 125/323 | 131/603 | 0/178 | 256/1405 | |
| 2017 園 | 31/100 | 2/5 | 8/8 | 11/12 | 25/36 | 0/9 | 69/162 | |
| 2017 樹 | 131/2831 | 6/44 | 20/39 | 100/222 | 188/1303 | 0/432 | 425/4832 | |

注) 数値は、被害園・樹数/調査対象園・樹数を示す。2018年は集計中。

2. 徳島大学生物資源産業学部等の学生らにより「クビアカツヤカミキリ捕獲隊」を編成し、成虫の捕獲を板野町吹田と同町川端で試みたところ、2017年には、合計で1,423頭が捕獲された。2018年も同程度が捕獲されている(現在、集計中)。

3. オス成虫が発出するフェロモンを人工合成トラップのルアーとしたところ(図4)、メ誘引し、捕獲できることが明らかとなった(図3)。

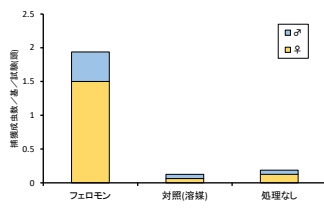


図3 合成したフェロモン剤の誘引効果 (Xu et al., 2017)



図4 モモ園内に設置した十字型衝突板トラップと合成したフェロモン名と構造

4. 成虫に対して、有機リン系のDMTP剤、マラソン・MEP剤、ネオニコチノイド系のアセタミプリド剤等の高い効果が明らかとなった。

(研究期間：平成29年～30年；県単試験研究費)

生産者のみなさまへ

本研究で得られた成果は、平成30年度よりイノベーション創出強化研究推進事業に引き継ぎ、効果的な防除技術の確立を進めていきます。

問合せ先 徳島県立農林水産総合技術支援センター
資源環境研究課 病害虫・鳥獣担当
電話 088-674-1954